

Crash Protection for NetWare servers

NetWare サーバーは、多くの企業・学校・官公庁で使用されています。そしてそのサーバーは、ビジネス上、常に稼動状態を安定的に保つことが最も高い優先度の1つです。米国ハル社、アルサグーラ社は、この要求に答えるべく、サーバークラッシュや abend (abnormal end to operation) の恐怖を最小限に留め、安全稼動を持続させるためのソリューションを提供いたします。このソリューションを提供するソフトウェアは、Alexander SPK (Server Protection Kit) で、本ソフトウェアを NetWare サーバーと組み合わせることにより、NetWare サーバーを最も安定したネットワークオペレーティングシステムにすることを可能にします。

頼りになるサーバーアップダクションの実装

Alexander SPK は、NetWare 3.x/4.x/5.x サーバー上で動作するように設計されており、NLM(NetWare Loadable Module)とデータを表示するための、Windows 上で動作するビューワープログラムから構成されています。さらに SPK は、ほとんどのサーバークラッシュを保護し、自己診断機能、エンドユーザーに対するサービス中断を防ぐためのリカバリ機能までを含んでいます。結果、SPK を導入することにより、クラッシュからサーバーを保護し、サーバーの不安定要因を発見することができます。

1つのソリューションの中に、サーバーアップダクションと自己診断を両立

ほとんどのサーバークラッシュ原因は、不安定なソフトウェアにあります。Alexander SPK は、サーバークラッシュの脅威となる、ソフトウェアの誤ったオペレーションを監視します。もし、NetWare サーバーをクラッシュさせる要因を発見すると、SPK は、自動的にバックアップで問題のソフトウェアを中断させて、そのリリースを開放します。これにより、サーバーをクラッシュから保護します。この不正なソフトウェアは、サーバーのリスタートを行うことなく、アンロード/再ロードすることができます。結果、ネットワークを使用するエンドユーザーは中断することなく、PC の使用を継続することができます。もしも避けられないクラッシュが発生した場合(ハードウェア障害等)、Alexander SPK はサーバーホールのディスクからデータを保護します。SPK はそれから、クラッシュに関する自己診断情報を収集し、サーバーをダウン状態から自動的にリスタートさせます。全てのクラッシュ詳細は、SPK に含まれている、Windows 上で動作するクラッシュファイルビューワーから参照することができます。さらにこのビューワーは自動的に全てのクラッシュファイルをバックアップして遠隔地のサポートエンジニアがエラー解析を行えるように e-mail 化できます。

中央集中管理

さらに作成したクラッシュファイルを、Alexander SPK は、SNMP trap メッセージとして、あらゆるネットワーク管理、アラートプログラムに送ることができます。例えば、ManageWise のツール上に

クラッシュファイルビューワーを自動的にランチするようにセットアップすることができます。

サーバー稼動時間を最大に

もしあなたの仕事が、NetWare のネットワーク管理、サポートであれば、始末に終えないソフトウェアをコントロールし、NetWare サーバーに、さらに大きな安定性を付加する SPK をご使用になることをお勧めします。Alexander SPK は、全てのクラッシュの局面を自動的に管理し、人手の介入を必要としません。さらに、SPK により、将来発生するであろう問題を診断し保護できます。Alexander SPK は以下の機能を提供します。

- NetWare 3,4,&5 をクラッシュから保護します。
- サーバルリスタート無しに、クラッシュを引き起こす NLM をアンロードできます。
- サーバルリスタート無しに、クラッシュを引き起こす NLM を再ロードできます。
- ユーザーの処理の中断無しにクラッシュデータを保管できます。
- 完全なクラッシュファイルを参照できます。
- SPK にバックアップされた Windows へのアクセスにより、シリアルに自己診断を実施できます。
- バックグラウンドで切れ目無く動作し続けます。
- 複数のクラッシュの脅威からシステムを保護します。
- ダメージを負った圧縮ファイルをスキャンします。
- ManageWise 等の管理ソフトと共に動作します。
- 他の管理アラート製品との連携のための SNMP trap を用意しています。
- 遠隔地サポートのために、クラッシュファイルを e-mail 化できます。

Novell 社の技術的専門知識

米国 Novell 社(Novell,Inc.)のテクニカルサポートエンジニアは、Alexander SPK によって作成されたクラッシュファイルを使用してサーバークラッシュを解析します。事実、Novell 社の世界中のサポートスタッフは現在、サーバークラッシュの追跡と保護のために SPK v3.11 を使用しています。これは、一般的なシステムとソフトウェアの非互換性を詳しく調査し、修正することが将来のシステムクラッシュを減らすことになるということです。

マルチプラットフォームでご利用の場合は、SPK マルチプラットフォームバージョンを使用する必要があります。
別途お問い合わせ下さい。
Alexander SPK はクラスターサーバーもサポートしています。

さらに詳しい情報をご覧ください。

< <http://www.nettool.co.jp> >

< 日本語版開発・発売元 >

ネットツール株式会社

194-0023 東京都町田市旭町 2-15-23 新日本ビル

TEL:042-726-2883 FAX:042-726-5303

email: < inq@nettool.co.jp > (お問い合わせ用)

< 開発元 >

Alexander LAN,Inc. < <http://www.alexander.com> >

Alexander SPK

サーバー
プロテクション
キット

Server Protection Kit for NetWare

SPK の動作環境

NetWare 3/4/5 が動作しているサーバで、SYS volume に、1MB 以上の空容量、DOS パーティションに 20MB 以上の空容量が必要です。(note: NetWare のインストールを全て DOS パーティション内に格納するには、サーバの RAM 容量以上の空容量が必要です。) SPK は、800 KB の RAM で動作し、サーバパフォーマンスに影響を与えません。

(ワークステーションは、Windows Me/98/95/NT/3.1/OS2 が動作している NetWare ワークステーションで、6 MB 以上のディスク空容量を持つ PC。本バージョンの SPK では、Windows2000 をサポートしていません。)

Alexander SPK Automated Server Crash Prevention

Alexander SPK v3.11J は、NetWare 5,4,3 全バージョンをサポートしています。Alexander SPK は、クラッシュの脅威をあたえる、不正なソフトウェアから、あなたの NetWare サーバを自動的に保護します。また、ハードクラッシュをソフトウェアクラッシュに軽減し、サーバをダメージから守ります。Alexander SPK は次々に発生するクラッシュ原因からあなたのサーバを保護し、ネットワークの安定稼働に貢献します。仮に防ぐことができないクラッシュが発生した場合でも(ハードウェア障害等) Alexander SPK は、クラッシュを通常のシャットダウンに変更し、ダメージからサーバを守ります。また、包括的な情報を持つクラッシュファイルを Windows へのビューワーからクラッシュレポートとして参照できます。SPK のサーバモジュール(NLM) は、サーバ内のバックグラウンド (SPK バックグラウンド) で動作し続け、サーバパフォーマンスに影響を与えません。Alexander SPK は、サーバクラッシュの全ての局面を、人手を介することなく自動的に管理します。

Alexander SPK のクラッシュビューワー

クラッシュに関する詳細情報は、シリアルな Windows へのビューワーから参照することができ、遠隔地でも内容を解析できるように、クラッシュ情報を e-mail 化することができます。クラッシュファイルは、クラッシュの脅威を与えたソフトウェアを特定するだけでなく、サーバ上でエラーが発生した瞬間(マイクロ秒単位)のイベントの全ての内容をファイルに保管します。e-mail を送られた遠隔地では、SPK がなくても e-mail 作成時、自動的にビューワーをバンドルして送信されるため、クラッシュ情報をその場で参照することができます。この e-mail 用ファイルには、全クラッシュデータ、メールを送るあなたの連絡先情報、あなたのコメント、インデント番号等のあなたの必要なオプションと Windows 用クラッシュビューワーが含まれます。本 Alexander SPK には、米国 Midnight Technologies, Inc. が開発した "Compton" がバンドルされます。Compton は、さらにサーバ保護を高めるため、サーバ上の破壊されたプログラムやデータをモニターします。

Certified by Novell

Alexander SPK は、米国 Novell 社の "Yes" テスト、"NDS 8" テストの認定を得ています。



SPK の動作概要

サーバ上で不正なオペレーションが発生した場合、サーバはクラッシュまたは Abend (Abnormal end to operation) となります。NetWare サーバは、実際に abend call を宣言します。EDNA.NLM (Emergency Diagnostics for the Network Administrator SPK に含まれる 1 つのプログラム) は、この abend call をインターセプトし、システムを引継ぎます。最初に EDNA は、不正な NLM を中断し、クラッシュを防止するよう試みます。それにより、ハードクラッシュがソフトウェアクラッシュに変更されます。それからサーバコントロール上にクラッシュレポートスクリーンを表示し、どのようなエラーが発生し、いつこのイベントが発生したかを知らせます。そしてこの全情報を SYS:¥EDNA¥ ディレクトリに Edna Crash File (.ECF) を作成し保管します。このファイル名は、クラッシュイベントが発生した年月日で構成されません。例えば 2000 年 10 月 27 日なら、SYS:¥EDNA¥20001027 となります。この日に複数のクラッシュが発生した場合は、ファイル名の後に a,b,c... と付け加えてユニークなファイル名にします。さらに EDNA はサーバコントロール上に、このクラッシュイベントを発生させた NLM をアンロードするためのメッセージを表示します。もし、アンロードを選択すると EDNA は、この NLM をサーバからアンロードして、この不正な NLM のためにアバウトされたもできます。これは、サーバが中断されることなく、不正な NLM をアンロードできる重要な機能です。もしもサーバクラッシュを防止できなかった場合(ハードウェア障害等)、EDNA はサーバコントロール上に Edna Crash Report Screen を表示し、全情報を .ECF ファイルを作成し、サーバ上の NetWare ディスクが安全な状況になるまで、DOS パーティションに保管します。また、サーバディスクをディスクウェアによるダメージから保護します。そして、サーバをダウンさせ、再起動させます。サーバが再起動した時点で、クラッシュファイル (ECF ファイル) を DOS パーティションから NetWare パーティションへロードし、DOS パーティションのデータをリムーブします。

他の管理・アラートソフトウェアとのインテグレーション

Alexander SPK は、SNMP trap により、他の管理、アラートソフトウェアにインテグレートすることができます。例えば、Novell 社、ManageWise のコントロールで SPK のクラッシュ情報を参照することができます。

世界中の Novell 社のサポートエンジニアが ECF ファイルを解析
米国 Novell 社 (Novell, Inc.) のサポートエンジニアは、SPK によって作成された ECF ファイルでクラッシュ内容を解析します。実際に、世界中の多くの Novell 社のサポートエンジニアは SPK v3.11 のサポートを持っています。

Alexander SPK v3.11J (SPK1-001-300J) ¥ 49,800 (サーバライセンス)

(マルチサーバライセンス料金は別途お問い合わせ下さい。)

(NetWare、ManageWise、NLM は米国 Novell, Inc.、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。)



ネットツール株式会社

< <http://www.nettool.co.jp> >